

キミドリ色からはじまった



《キミドリの部屋》
油彩 キャンバス
227.0 x 182.0 cm
2003年

創作の道しるべの色

黄緑色は、現代美術家・大谷有花のテーマカラーと言えるだろう。彼女自身の言葉を借りると「キミドリ色」だ。秋田公立美術大学で教鞭を執る傍ら、アーティストとしても活動する大谷は、『対話』や『日本の美をキャンバスに描き出す。その活動は、ギャラリーでの個展からホテルの一室を丸ごとキャンパスのように使ってみようアーティストルームまで多岐に渡る。

大谷にとって、キミドリ色は創作の原点の色だ。幼い頃、無我夢中で絵を描いたり、粘土の人形を作ったりして遊んでいた

子供部屋に敷かれていたのがこの色の絨毯であった。大谷の最初のアトリエとも言える部屋を象徴するキミドリ色を用いた作品は、いくつになっても自己の感性のまま自由に描いていた頃のことを思い起こさせてくれる。幼い頃の思い出は、大谷が創作に迷ったときに道しるべとなつて、常に彼女の支えになってきた。

多摩美術大学では、油彩画を専攻していた大谷。風景や人物を描いてきた彼女は、次第に内面的なテーマを表現するようになる。油彩画だけでなく、インスタレーション作品にも取り組



《キミドリの風景》油彩 キャンバス
38.0 x 182.0 cm / 2008年

み、空間や時間を表す作品を制作していた。一過性のアートであるインスタレーション。それが良さの一つでもあるが、作り上げた空間を持ち運びたい、留めておきたいという気持ちから、絵画として表現した『キミドリの部屋』(64頁)が誕生した。いわば自分だけの記憶に着目した作品だ。描く側の大谷も鑑賞する側もキャンバスの中に溶け

現代美術家 大谷有花